

Kyoto University of Art and Design

第一回 京都造形芸術大学映画祭

— 穴戸錠からパレスチナまで —



13:00 スタート

【上映作品・来場ゲスト】

8/4 『TATTOO<刺青>あり』
『光の雨』

高橋伴明 (映画監督)

高橋恵子 (映画女優)

9/30 『猟奇的な彼女』
『ラブストーリー』

郭在容 (映画監督)

寺脇研 (映画評論家)

10/28 『海と毒薬』
『ツィゴイネルワイゼン』

木村威夫 (美術監督)

11/23 『我が人生最悪の時』
『遙かな時代の階段を』
『罠 THE TRAP』

林海象 (映画監督)

佐野史郎 (俳優)

12/16 『エドワード・サイド OUT OF PLACE』
『ガーダ —パレスチナの詩—』

佐藤真 (映画監督)

古居みずえ (映画監督)

北小路隆志 (映画評論家)

1/20 『殺しの烙印』
『拳銃は俺のパスポート』

穴戸錠 (映画スター)

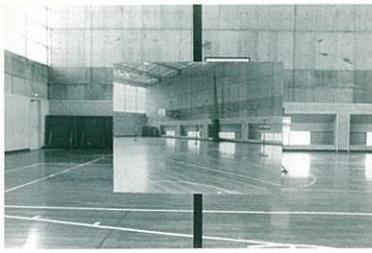
10/27 特別企画上映

伊藤高志映画祭

映画祭ディレクター 林海象

特別企画上映／10月27日(土) ゲスト／伊藤高志(映像作家)、八角聡仁(映画・演劇批評家)

『伊藤高志映画祭～映像の魔術、幽霊たちのエネルギー～』



80年代以降のアートシーンに多大な影響を与えた伊藤高志の実験映画。
衝撃のデビュー作『SPACY』をはじめ国内外の映画祭で高く評価された作品群の特別上映。

- ・「SPACY」1981(10分)16mm
 - ・「THUNDER」1982(5分)16mm
 - ・「ドリル」1983(5分)16mm
 - ・「GHOST」1984(6分)16mm
 - ・「悪魔の回路図」1988(7分)16mm
 - ・「12月のかくれんぼ」1993(7分30秒)VTR
 - ・「ZONE」1995(13分)VTR
 - ・「モノクローム・ヘッド」1997(10分)16mm
 - ・「めまい」2001(13分)VTR
 - ・「静かな一日・完全版」2002(20分)VTR
- 10作品 1時間40分

SCHEDULE & TIME TABLE

13:00 13:10

8/4(土) 高橋伴明 映画祭	挨拶	『TATTOO<刺青>あり』 107min	休憩 15分	◎トーク(60min) ゲスト:高橋伴明 高橋恵子	休憩 10分	『光の雨』130min		
9/30(日) 郭在容 映画祭	挨拶	『猟奇的な彼女』 122min	休憩 15分	◎トーク(60min) ゲスト:郭在容 林海象 寺脇研	休憩 10分	『ラブストーリー』 129min		
10/27(土) 伊藤高志 映画祭	挨拶	上映(1回目) 100min	休憩 10分	◎トーク(60min) ゲスト:伊藤高志 八角聡仁	休憩 10分	上映(2回目) 100min		
10/28(日) 木村威夫 映画祭	挨拶	『海と毒薬』 123min	休憩 15分	◎トーク(60min) ゲスト:木村威夫 林海象	休憩 10分	『ツィゴイネルワイゼン』 145min		
11/23(金) 林海象 映画祭	挨拶	『我が人生最悪の時』 92min	休憩 10分	『遙かな時代の階段を』 101min	休憩 15分	◎トーク(60min) ゲスト:佐野史郎 林海象	休憩 10分	『罠 THE TRAP』 106min
12/16(日) 佐藤真 映画祭	挨拶	『エドワードサイド OUT OF PLACE』 137min	休憩 15分	◎トーク(60min) ゲスト:佐藤真 古居みずえ 北小路隆志	休憩 10分	『ガーダ ーパレスチナの詩ー』 106min		
1/20(日) 穴戸錠 映画祭	挨拶	『殺しの烙印』 91min	休憩 15分	◎トーク(60min) ゲスト:穴戸錠 林海象	休憩 10分	『拳銃は俺のパスポート』 84min		

チケット(全席自由):通し券5,000円(全6回+特別企画上映1回) / 1回券 一般1,500円 学生・シニア1,000円
(特別企画上映「伊藤高志映画祭」は一般・学生・シニア500円)

チケット取り扱い:京都芸術劇場チケットセンター tel075-791-8240 人間館1F(平日10時~17時)
京都造形芸術大学 映画学科研究室 tel075-791-9353 天心館アネックス3F(平日9時~17時)

会場:京都芸術劇場 春秋座(本学人間館NB棟1F)

問合せ:京都造形芸術大学 映画学科研究室 tel.075-791-9353(平日9時~17時)

主催:京都造形芸術大学 映画学科

協力:東宝株式会社、シネカノン、株式会社ショウゲート、 Showgate、株式会社クロックワークス、株式会社新日本映画社、株式会社リトルモア、フォーライフミュージックエンタテイメント、映像探偵社、株式会社シグロ、安岡フィルムズ、アジアプレス・インターナショナル、日活株式会社(上映作品順)

ACCESS MAP



京都芸術劇場 春秋座(京都造形芸術大学 人間館1F)

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

※特別企画上映のみ、京都造形芸術大学 映像ホール(人間館地下1F)

映画学科

TEL.075-791-9353(平日9時~17時)

<http://eiga-gakka.org>

- ◇ JR「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分)
 - ◇ 市営地下鉄「丸太町」「北大路」駅から
→京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
 - ◇ 京阪電鉄「出町柳」駅から
→叡山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分
→タクシーで10分
- ※ 駐車場はございません。

『第一回 京都造形芸術大学映画祭』

—穴戸錠からパレスチナまで—

歌舞伎の劇場で観る映画祭

2007年に新設された京都造形芸術大学「映画学科」。その主旨のひとつに「浴びるほど映画を観る」があります。本学には「春秋座」という見事な歌舞伎劇場があり、どうせ浴びるほど映画を観るなら、最も豪華な環境で学内外の人々に映画を観てもらおうと「京都造形芸術大学映画祭」を企画しました。歌舞伎劇場で映画が上映されるのは日本初だと思います。歌舞伎と映画、その二つは「観客を魅了する芸術」というところで深く繋がっています。娯楽の王道でもある「歌舞伎と映画」、その両方の雰囲気をごこの映画祭でお楽しみください。大画面で観る映画の数々とともに、その映画にまつわる監督や映画スターたちをお招きして、京都の瓜生山に「娯楽芸術」という大きな華を咲かせたいと、私たち「映画学科」は考えています。本映画祭は本学が広く一般に公開する学内カリキュラムの目玉でもあります。学生はもとより学外の映画を愛する方々のご参加を切に願っております。

林海象 (映画学科学科長)

第一回／8月4日(土) ゲスト／高橋伴明 (映画監督)、高橋恵子 (映画女優)

『高橋伴明映画祭～映画と喧嘩する監督と女優～』



『TATTOO<刺青>あり』

監督：高橋伴明
1982年 / 107分 / 国際放映、高橋プロ、ATG
製作：佐々木史朗 / 脚本：西岡琢也 / 撮影：長田勇市 / 照明：三好和宏 / 音楽：宇崎竜童 / 録音：福田伸 / 美術：細石照美 / 編集：菊池純一
出演：宇崎竜童、関根恵子、渡辺美佐子、太田あやこ、忍海よしこ、矢吹二郎、下元史朗

1979年に大阪で起きた三菱銀行強盗事件をモデルに、銀行員を人質にとって籠城した犯人の人間形成と人生観を描いた映画である。女子行員を裸にして自分の盾に使った異常な事件として一大センセーションを巻き起こした犯人を宇崎竜童、その情夫を関根 (高橋) 恵子が演じている。検死官が運び込まれた死体を調べ「特徴、タトゥーあり」と報告したシーンから始まるこの映画は、主人公の破滅に至るまでの日常をドライに描ききる。

第二回／9月30日(日) ゲスト／郭在容 (映画監督)、林海象 (映画監督)、寺脇研 (映画評論家)

『郭在容映画祭～韓国映画の未来と展望～』



『猟奇的な彼女』

監督：クァク・ジョヨン
2001年 / 韓国 / 122分 / シンシネ
撮影監督：キム・ソンボク
編集：キム・サンボム
出演：チョン・ジヒョン、チャ・テヒョン

超キュートなルックスとは裏腹に過激で凶暴、そのくせ無謀なまでに正義感が強い「彼女」と大学生キョヌとの、切ないほどに胸を打つビュアな恋物語。原作は韓国のパソコン通信「ナウマリ」の掲示板に投稿された大学生の実話による恋愛小説。これが爆発的な話題を呼び、単行本化され10万部を超える大ベストセラーに、そして映画化へと至った。まさにネット世代から生まれた新世紀映画。



『光の雨』

監督：高橋伴明
2001年 / 130分 / シー・アイ・イー、エルクインフィニティ、衛生劇場
製作総指揮：高橋紀成 / 製作：遠藤秀化、石川富康 / 原作：立松和平「光の雨」 / プロデューサー：青島武、森重晃 / 脚本：青島武 / 音楽：梅林茂 / 撮影：柴主高秀 / 照明：渡部嘉 / 録音：福田伸 / 美術：金勝浩一 / 編集：菊池純一
出演：萩原聖人、裕木奈江、山本太郎、池内万作、鳥羽潤、高橋かおり、塩見三省、大杉漣

連合赤軍による同志リンチ殺人を描いた立松和平の長編小説「光の雨」を原作に、戦後左翼運動の最大の転機となった「あの時代」を初めて描いた映画である。高橋伴明は、自らも体験した党派内闘争に明け暮れた70年代を、リンチ殺人事件を描く「劇中劇」に仕立て上げ、リンチの場面を演じる若手俳優やそれを演出する監督の心の葛藤を通して、革命と総括に終始した連赤事件を野心的に描いた快作。



『ラブストーリー』

監督：クァク・ジョヨン
2003年 / 韓国 / 129分 / エッグフィルムズ
製作：チ・ヨンジュン / 撮影：イ・ジュンギ
音楽：チョ・ヨンウク / 美術：ソン・ユニ
編集：キム・サンボム、キム・ジェブ
出演：ソン・イェジン、チョ・スンウ、チョ・インソン、イ・ギウ

偶然によって導かれた母の初恋を基軸に、過去 (1968年) と現在 (2003年)、母娘の二つの時代を結ぶ愛の物語。35年の時を越え、母の恋が娘の恋に奇跡を起こす。胸が締めつけられるほど切なく純粋な、まさに究極の「ラブストーリー」。韓国でも社会現象を起こした前作『猟奇的な彼女』に引き続き、クァク・ジョヨンが脚本も担当しており、独特のタッチでストーリーテラーとしての才能も遺憾なく発揮している。

第三回／10月28日(日) ゲスト／木村威夫 (美術監督)、林海象 (映画監督)

『木村威夫映画祭～美術監督作品200本を越えて～』



『海と毒薬』

監督・脚本：熊井啓 / 美術：木村威夫
1986年 / 123分 / 『海と毒薬』製作委員会
製作：滝島忠一郎 / プロデューサー：大塚和、宮川孝至 / 原作：遠藤周作 / 撮影：橋沢正夫 / 照明：岩木保夫 / 録音：久保田幸雄 / 音楽：松村禎三 / 編集：井上治 / 監督補：原一男
出演：奥田瑛二、渡辺謙、成田三樹夫、神山繁、岸田今日子、根岸季衣、津嘉山正徳、千石規子、岡田真澄、田村高廣

太平洋戦争末期の昭和20年5月、九州の大病院の医師らに軍から命令が下り、米軍捕虜の生体解剖実験が行われた。このショッキングな事件を真正面から描いた本格的な社会派ドラマである。物語は、どのような状況で生体解剖実験が行われたかを二人の若い医学生それぞれの回想で語ってゆく。事件に否応なく巻き込まれていく二人の姿を通して、日本人の罪と罰に対する意識のあり方を鋭く描いている。



『ツイゴイネルワイゼン』

監督：鈴木清順 / 美術：木村威夫、多田佳人
1980年 / 144分 / シネマ・ブラセット
製作：荒戸源次郎 / 脚本：田中陽造 / 撮影：永塚一栄 / 照明：大西美津男 / 録音：岩田広一 / 音楽：河内紀 / 編集：神谷信武 / 記録：内田駒子 / スチール：荒木経惟
出演：原田芳雄、大谷直子、藤田敏八、大楠道代、真喜志きさ子、鷹赤見、樹木希林

内田百閒の「サラサテの盤」ほかいくつかの短編小説を、生と死、時間と空間、現実と幻想のなかを彷徨う物語として田中陽造が脚色。鈴木清順の人工的でキッチュな飛躍したイメージを美術監督の木村威夫と多田佳人が見事に作り出している。最初の公開は東京タワーの駐車場に作られたドーム型特設劇場で行われた。今や伝説となった移動映画館「シネマ・ブラセット」の初製作上映作品。

第四回／11月23日(金) ゲスト／佐野史郎 (俳優)、林海象 (映画監督)

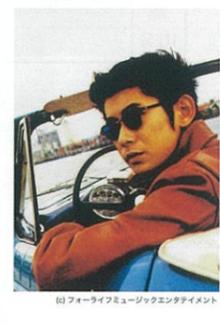
『林海象映画祭～映画を探偵する監督と俳優～』



『我が人生最悪の時』

監督：林海象
1993年 / 92分 / フォーライフミュージックエンタテイメント、映像探偵社
製作：後藤豊 / プロデューサー：古賀俊輔、林海象、余為彦 / 企画：福寿裕久雄 / 脚本：林海象、天願大介 / 撮影監督：長田勇市 / 照明：長田達也 / 美術監督：木村威夫 / 録音：浦田和治 / 音楽：めいな Co.
出演：永瀬正敏、南原清隆、佐野史郎、塚本晋也、穴戸錠、南果歩

演劇マイクは横浜黄金町にある映画館「横浜日劇」の2階に事務所を構える私立探偵。台湾青年に兄の捜索を依頼され、調査を進めるマイクは、台湾マフィアと日本の新興暴力団との抗争に巻き込まれるはめに…。私立探偵 演マイクシリーズ第1弾。



『遙かな時代の階段を』

監督：林海象
1994年 / 101分 / フォーライフミュージックエンタテイメント、映像探偵社
製作：後藤豊 / プロデューサー：古賀俊輔、林海象、板井勉 / 企画：福寿裕久雄 / 脚本：林海象、天願大介 / 撮影監督：長田勇市 / 照明：長田達也 / 美術監督：木村威夫 / 音響デザイン：浦田和治 / 録音：荒畑洋 / 編集：富田伸子 / 音楽：めいな Co.
出演：永瀬正敏、南原清隆、佐野史郎、杉本哲太、穴戸錠、坂本スミ子、罇瀬晴子、岡田英次

探偵ブームの火付けとなった「我が人生最悪の時」に続くシリーズ第2弾。この作品のテーマは「時代と家族」。戦後から現代への時代の流れと血縁に悩み苦しめ、そして挑んでゆく私立探偵 演マイクの活躍を描いている。



『異 THE TRAP』

監督：林海象
1995年 / 106分 / フォーライフミュージックエンタテイメント、映像探偵社
製作：後藤豊 / プロデューサー：古賀俊輔、林海象、板井勉 / 企画：福寿裕久雄 / 脚本：林海象、天願大介 / 撮影監督：長田勇市 / 照明：長田達也 / 美術監督：木村威夫 / 録音：浦田和治 / 編集：富田伸子 / 音楽：めいな Co.
出演：永瀬正敏、夏川結衣、山口智子、南原清隆、穴戸錠

私立探偵 演マイクシリーズ完結篇。永瀬正敏の初の2役挑戦、山口智子の妖艶な演技等、タイトルどおり随所に「異」がちりばめられている。「異常な心理犯罪事件」に焦点を当てたスタイリッシュかつ隠微なサイコスララームービー。

第五回／12月16日(日) ゲスト／佐藤真 (映画監督)、古居みづえ (映画監督)、北小路隆志 (映画評論家)

『佐藤真映画祭～ドキュメンタリーの境界～』



『エドワード・サイド OUT OF PLACE』

監督：佐藤真
2005年 / 137分 / シグロ / 支援：文化庁
企画・製作：山上徹二郎 / 撮影：大津幸四郎、栗原朗、佐藤真 / 監音：弦巻裕 / 編集：桑岳志 / 現場録音：Tom Barkay, Mustafa Al Hamid, John Duval / 助監督：ナジブ・エルカシュ (アラブ側取材)、屋山久美子 (イスラエル側取材)、石田優子 / 協力プロデューサー：ジャン・ユンカーマン
出演：Mariam Said (妻)、Najla W. Said (娘)、Wadie E. Said (息子)、Noam Chomsky (マサチューセッツ工科大学言語学・政治哲学)、Michel Warschawski (イスラエル人権活動家)、Daniel Barenboim (イスラエル人指揮者・ピアニスト) / ナレーション：宝亀克寿 / テキスト朗読 山川建夫

2003年9月に亡くなったパレスチナ人の思想家で、「オリエンタリズム」などの鋭利な比較文学者として知られたエドワード・サイドの記憶と痕跡を迎える長編ドキュメンタリー。サイドの生まれたエルサレム、少年時代を過ごしたカイロ、などの痕跡を巡りながら、南レバノンのパレスチナ難民キャンプ、イスラエル国境のキブツや今もイスラエル国内に留まり続けるパレスチナ人などを通して、アイデンティティの根源をゆるやかに問うた映画である。第61回毎日映画コンクール「ドキュメンタリー映画賞」受賞作品。

第六回／1月20日(日) ゲスト／穴戸錠 (映画スター)、林海象 (映画監督)

『穴戸錠映画祭～エースの錠日活黄金時代を語る～』



『殺しの烙印』

監督：鈴木清順
1967年 / 91分 / 日活
企画：岩井金男 / 脚本：具流八郎 / 撮影：永塚一栄 / 照明：三尾三郎 / 美術：川原資三 / 録音：秋野能伸 / 音楽：山本直純
出演：穴戸錠、小川万里子、真理アンヌ、玉川伊佐男、南原宏治

ナンバーワンの座をめぐる死闘を繰り広げる殺し屋たちの姿を、奇抜なアイデアと斬新な映像で描いた鈴木清順監督作品。その奇抜さゆえ、「訳の分からぬ映画を撮る監督」として日活を解雇されるきっかけとなったいわくつきの傑作。穴戸錠が単身で組織に立ち向かう殺し屋を、真理アンヌがエキゾチックな美貌の女を演じている。



『拳銃は俺のパスポート』

監督：野村孝
1967年 / 84分 / 日活
企画：柳川武夫 / 原作：藤原審爾 / 脚本：山田信夫、永原秀一 / 撮影：峰重義 / 照明：安藤真之助 / 録音：中村敏夫 / 美術：松井敏行 / 編集：鈴木暁 / 音楽：伊部晴美
出演：穴戸錠、ジェリー・藤尾、小林千登勢、武智豊子、内田朝雄

ガン・マン穴戸錠がジェリー・藤尾と新コンビを組んで放つハード・ボイルドアクション大作。暗黒街の怖るべき殺人事件……。ボス暗殺計画をまっとうし、自ら非常な罠に落ちこんだ殺し屋ジョーが、必死の逃亡の末、敢然、裏切りの組織と対決するもので、監督は野村孝。キャストは主演穴戸錠をはじめジェリー・藤尾、小林千登勢、嵐寛寿郎、内田朝雄、草薙幸二郎、佐々木孝丸、武智豊子、深江喜章、山田弾二といった多彩な顔ぶれ。